

令和4年度
第2回長浜市景観審議会
会 議 要 点 録

長浜市景観審議会

令和4年度第2回長浜市景観審議会 会議要点録

○日 時 令和5年1月23日(月) 14時00分から15時20分まで

○場 所 長浜市役所1階 多目的ルーム1

○出席委員 9人

阿部俊彦(会長)、山崎泰寛(副会長)、大村悟子、小財憲司、佐藤泉、中辻克明、西川丈雄、松山利喜雄、山口陽稔(敬称略)

○欠席委員 1人

東幸代(敬称略)

○事務局 5人

横山部長、井口課長、二村係長、田中主幹、山田主幹、村田主事

○傍聴人 2人

○配布資料

- ・資料1 第8期 長浜市景観審議会 委員名簿
- ・資料2 長浜市景観審議会の設置等に関する規定について
- ・資料3 長浜市情報公開条例及び附属機関の会議の公開等に関する要綱
- ・資料4 長浜市景観まちづくり計画 現況調査結果
- ・資料5 長浜市景観まちづくり計画 意識調査の結果
- ・資料6 長浜市景観まちづくり計画 改定ポイント

○会議要点録

1 開会

2 あいさつ

3 会議の公開について

資料3に基づき説明。「附属機関の会議の公開等に関する要綱」第2条第1項の規定に基づき、会議を公開することとした。

4 報告事項

■長浜市景観まちづくり計画改定にかかる事前調査の結果について

- ・資料4に基づき、長浜市景観まちづくり計画現況調査結果を事務局から説明
- ・資料5に基づき、長浜市景観まちづくり計画改意識調査(市民アンケート、ヒアリング調査)を委託業者から説明。

【質疑応答】

(委員)

- ・農家戸数のみを特筆している理由はあるか。他の社会的要因についても検討しているのか。

- ・上位関連計画との不整合について、具体的に何の不整合があるのか検討しているのか。

(事務局)

- ・本資料については必要最小限のデータのみ記載している。他の社会的要因は検討の上、今回記載はしていない。
- ・景観まちづくり計画の策定は平成20年3月であり、そこから3度の変更を行っているが、徐々に関連計画との整合にずれが生じていると考えている。今後、上位関連計画と整合を図りながら改定作業を進めていく予定である。

(委員)

- ・「湖(うみ)の辺(べ)のまち長浜未来ビジョン」は上位計画なのか、関連計画なのか。

(事務局)

- ・別の担当部署であるが市内部の計画であるので、計画改定時には関連計画として扱う。

(会長)

- ・「湖(うみ)の辺(べ)のまち長浜未来ビジョン」も含め、本資料に記載されていない市内部の計画も存在するので、それら計画の確認も必要である。

(会長)

- ・届出状況について、基準に不適合なため建築許可が下りなかった事例はあるのか。

(事務局)

- ・届出の際はまだ建築がされていない状況であるので、提出書類より判断し、適合しない場合は再度検討・修正していただく仕組みになっている。基準に適合しているか微妙な場合は、内部や関係部署と相談のうえ、判断している。

(会長)

- ・過去に不適合と判断された事例の協議内容等を確認しておくことは必要であると考える。

(委員)

- ・意識調査について、属性データは把握しているのか。

(委託業者)

- ・属性も含めてデータを集計している。本資料に掲載はしていない。

(会長)

- ・年齢別の集計結果等、属性別にみることで明らかになる結果もあると考えられる。それらの結果も検討すると良いと考えられる。

(委員)

- ・届出状況について、以前に基準に適合していない事例があり、景観審議会で審議を行った記憶がある。その事例についての審議の流れを整理すると今後有益ではないか。
- ・太陽光発電施設について、過去の審議会で審議を行ってきた。太陽光発電施設について、現在の傾向が知りたい。

5 審議事項

■長浜市景観まちづくり計画改定ポイントについて

- ・資料6に基づき、長浜市景観まちづくり計画改定ポイントを事務局から説明

【質疑応答】

(会長)

- ・市民アンケート調査の年齢別での集計において、18歳～29歳をまとめているが、20歳前後と20歳後半では考え方が違うのではないか。例えば子育て世代としての意見等が見えてくるのではないか。

(委員)

- ・空き家の推計値のグラフについて、第1～9連合という自治会名称は「まちなか」に変更となっているので、修正してほしい。
- ・年齢だけでなく、サラリーマン等の職業による分類でデータを見ることはできないか。地域やまちへの関わり方に違いが出るのではないか。
- ・中心市街地内で景観形成重点区域に指定されている地域は、特に高齢化が進み、若年層も住んではいるがあまり地域活動には積極的ではないと感じる。重点区域の指定に関わった方や積極的に活動に参加していた方が既に亡くなっていたりもする。
- ・米川を景観形成重点区域に指定できないか。

(会長)

- ・川は琵琶湖に繋がる景観であり、長浜の資源であると考え。地域の方によって守るための活動が行われているのならば、景観まちづくり計画は推進・サポートしていく必要があると考える。
- ・担い手の不足について、どのようにサポートするべきか、景観まちづくり計画として検討していくべきであると考え。

(委員)

- ・担い手不足の問題もあるが、一方で、若年層でも自宅周辺の清掃等の活動がみられ、日常景観の向上の担い手になっていると考えられる。そのような活動を評価できる仕組みがあればいいのではないか。そのような活動が景観向上につながっていると認識してもらえることが重要であると考え。

(委員)

- ・社会情勢との整合性とあるが、具体的にどのようなことか。

(事務局)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、生活習慣が変わってきている方もいる。建築物について、昔と現在で建築手法に違いも存在すると考えられる。

(会長)

- ・人口増加とともに建築物を次々建設していた頃とは時代が変わってきているともいえる。今あるものを資源として保全する必要もある。

(委員)

- ・社会情勢は基本的に大きなトレンドとしてゆっくり変化していくものであり、そのトレンドを把握することでやっと整合を取ることができるのではないか。
- ・一方で、社会情勢の変化では揺らがないような長年の歴史の中で醸成されたものもあると考えられる。

(委員)

- ・15年程前に田園空間整備事業があったが、現在はその事業はどうなっているのか。

(事務局)

- ・事業としては終了している。田んぼに関わる水路など、違う事業で保全しているものもある。

(会長)

- ・景観計画は基本的に規制であり、推進していく施策に乏しいという点はある。
- ・それら事業によって整備された事例のその後を把握することは有効なのではないか。

(委員)

- ・空き家や耕作放棄地の問題は複雑であり、他の制度・施策や部署とも連携しながら考えないと課題の解決にはつながらないと思う。

(会長)

- ・計画に記載しておくことで、今後の施策推進の根拠となる。
- ・確かに景観まちづくり計画だけでどうにかなる問題ではないが、課題として明記し、他の制度・施策や部署とも連携しながら課題解決に取り組む必要があるのではないか。
- ・どの制度・施策との連携が有効なのかは今後検討する必要があると考える。

(会長)

- ・空き家の増加は課題でもあるが、一方で資源と考えることもできるのではないか。空き家を安く貸し出すことで、若年層を呼び込むことができるかもしれない。そうすることでまちが変わっていく可能性もあるのではないか。

(委員)

- ・景観を意識するイベントとして、まち歩き等が行われている事例はないのか。

(事務局)

- ・景観として行われているイベントではないが、地域づくり協議会において、清掃活動やまち歩きが実施されていることが今回把握できた。今後、この活動をどのように景観に繋げていくことができるか、来年度以降検討していく。

(会長)

- ・大津市と草津市は対岸の景観を意識した連携を取っている。奥びわ湖は対岸景観形成を検討してもよいのではないか。

(委員)

- ・まちとふれあい、景観を認識できるようなイベントがあればよいと考える。

(会長)

- ・景観活動に取り組む個人や団体を表彰できる制度があればよいと考える。

(委員)

- ・コロナ禍を経て、中心市街地の空き家は増加していると感じる。様々な方がワークショップの場としての貸し出しなど空き家整備活動に取り組まれているが、まだまだ難しいと感じる。自分たちの店舗を維持していくことで精一杯な面もある。
- ・まち歩きなど、まちに関わる機会を持ってもらい、まちの現状を知ってもらうことも重要だと考える。

(委員)

- ・関連法令の調査はどのようにするのか。

(事務局)

- ・委託業者に収集させている。併せて市としても県に確認を取る等で調査していく。

(委員)

- ・景観は連続しているので、周辺他市との景観形成方針との整合性も重要であるとする。

(事務局)

- ・琵琶湖周辺は県主導で景観形成方針が示されている。そちらとの整合性は取っていく。
- ・その他の景観要素については、周辺他市との整合性の検討は重要であるとする。

(委員)

- ・環境基本計画と景観まちづくり計画の重なる部分の扱いはどうすべきか。

(事務局)

- ・地域づくり協議会においても、清掃活動が多く行われていた。これは環境にも景観にも関わる活動であると認識している。庁内関係部署とも連携、調整して取り組む。

(会長)

- ・一般的な計画の考え方としては、他の計画と関連する点について、どちらの計画でも重なるように対応するものである。

6 今後のスケジュールについて

7 閉会